

道徳学習指導案

指導者 盛岡市立上田中学校 教諭 及川公子

- 1 日時 平成15年11月28日(金) 5校時
- 2 学級 盛岡市立上田中学校 3年2組 男子19名 女子18名 合計37名
- 3 主題名 家族の絆 4-(6)家庭愛 資料名 「誰かに甘えたい」気持ちは変わらない
暁教育図書 中学生の道徳3「自分をのぼす」

4 主題について

内容項目4-(6)は「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く」ことを目指している。家族とは、それを構成する成員の一人一人であり、また、成員相互の人間関係であり、さらにはその集合体を指す。それに対して家庭は、生活と運命の絶え間ない共同を通して、歴史的に形成されたさまざまな物的精神的要素がそこに含まれる。したがって、このような家族によって成される家庭において、愛を受けつつ、さらに愛するに値する家庭にするための何がしかのはたらきをしようとするところに本項目の意味がある。本時は特に、家族は限りある“生”を慈しみ合って共に生きようと訴える主人公の姿を通して、家族を構成する相互の温かな信頼関係や愛情によって絆が深まることを自覚し、家族の一員としてより充実した家庭生活を築こうとする心情を養うことをねらいとしている。

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていきたいという意欲が高まってくる。そのため、父母や祖父母の言動に対して反抗的になったり不満を持ったりすることがある。ちょっとした忠告や叱責を冷静に受けとめることができず、言いがかりや干渉であると感じるばかりか、家族とのふれあいを面倒くさがるような態度に出ることさえある。しかし、私たち人間はだれでも、生まれたときから家族という集団の一員として存在してきた。そして、今自分が存在するのは、父母をはじめとする家族の深い愛情により大切に守られ育てられてきたからである。そこで、この時期に、人間は一人で生まれ育っているのではなく、家族の愛情によって支えられていることを再認識させ、深い絆によって結ばれた家族に対する感謝と尊敬の念を持たせることは意味のあることだと考える。また、近年では、核家族化や少子化が進み、かつてのような大家族の人間関係の中でしつけられ、家族の連帯を自覚したり人間関係の機微を学んだりする機会が少なくなってきた。このことから、自分と家族とのかかわり、家庭生活のあり方という人間としての生き方の基本に立ち返って、自分自身を見つめ直すことは大切であると考え、この主題を設定した。

生徒は、素直で従順であるが、自分の考えを持っていながら、積極的に発言しようとする意欲に欠ける面がみられる。しかし、「道徳の時間」に書いている学習シートを見ると、友達の意見を聞いて自分の考えの足りなかったところや、新たに発見したことなどを真面目に記述している生徒がほとんどである。また、授業で把握した価値を自分なりの言葉で記述し、自分の生活と結びつけて考える生徒も増えてきた。また、本時に扱う価値にかかわっては、上述のような一般的中学生の特徴と似ているところが見受けられる。特に、進路選択にかかわって両親と衝突したり、気まずい雰囲気が続いているという生徒も少なくない。親のことをうるさいと感じ、自分の気持ちをわかってくれないと思う反面、内心は心細く、不安であるその気持ちを親にぶつけては自己嫌悪に陥っている生徒もいる。そのような実態もふまえ、家族のだれもが自分の幸せを願ってくれていることを、もう一度感謝の気持ちを持って受けとめ、自分も家族の一員として愛情を注ぎ、より良い家庭生活を営むためのあり方を考えさせたい。

資料『「誰かに甘えたい」気持ちは変わらない』は、演出家である主人公が、祖母の死を通して介護という問題とともに家族のあり方に関心を抱き、自分の芝居でそれを取り上げて訴えかけるというストーリーである。寝たきりの生活を強いられた祖母に対して、家族は懸命に介護をする。家業である農業の他に祖母の介護が重なり、重労働の毎日の中で家族はもめることもあった。しかし、主人公の家族はそれぞれの役割を果たし、祖母の最期を看取った。祖母が他界したとき、主人公始め、家族はホッとした気持ちになる。だが、祖母の生前の言葉「年をとっても誰かに頭をなでて欲しい、傍にいて欲しい、かまって欲しい」を思い出しながら、自分の考えは間違っていると思い直す。祖母の介護のためにそれぞれに手を尽くした家族を思いながらも、尚も大切な心と心の問題に考えめぐらす主人公の姿を十分に感じ取らせたい。

授業では、「年をとっても誰かに頭をなでて欲しい」という言葉から、年老いて体の自由を奪われ、最期を迎えようとする祖母の切なさや、痛みと共に感させたい。そのことによって、一度はホッとした主人公が、改めて家族の絆について考えていった心の有り様を追体験させることが可能になると考える。そして、「生きているうちは精一杯慈しみ合おう」という言葉から、主人公の考える「家族の原点」である、互いの揺るがない愛情や信頼の尊さを確かめ合って、本時のねらいに迫りたい。

5 本時のねらい

家族は互いの愛情や信頼によって結ばれていることを自覚し、家族の一員としてより充実した家庭生活を築こうとする心情を養う。

6 本時の指導の構想

授業の前半では、祖母が他界したことでホッとした気持ちになるまでの、家族の状況を十分に把握させる。そして、後半では一度はホッとした主人公が、祖母の言葉を思い出すことで家族の絆について考え直した心の変容を追体験させる。その上で、自ら演出する芝居の中で、「生きているうちは精一杯慈しみ合おう」と訴えるその言葉から、家族の心と心のつながりや愛情を持って接することの大切さについて考えさせ価値に迫りたい。

また、終末部分では、各家庭からのメッセージを読ませることを通して、家族の絆の尊さを感じさせるとともに、自分からも愛情を注いでいこうとする意欲を持たせて終わりたい。終末段階での「心のノート」は、家族からのメッセージを受けて自分からもメッセージを発信させるものとして使用する。これは、家族から愛情を受けるだけでなく、自分からも注ぎようとする意欲を喚起させるねらいがある。導入部分での、家族とのかかわりを面倒に思う現状の自己把握の場面とともに、「心のノート」の十分な活用がなされるよう留意したい。

7 本時の評価の観点

家族の深い愛情と信頼によって支えられている自分であることを自覚し、家族の一員として自らもその絆を大切にしようとする心情を自分の言葉で表現できたか。

段階	時間	教師の働きかけ (主な発問等)	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入	3分	<p>* 「心のノート」 P102, 103を読む。</p> <p>* 資料のタイトルにかかわって感想を求める。 「誰かに甘えたいと思うのはどんなときですか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悩んだり困ったりしているとき。 ・疲れていたり、体調が優れなかったりするとき。 ・何かとてもよいこと、うれしいことがあり、ほめて欲しいとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と家族とのかかわりについて考える時間であることを示す。 ・「甘える」という言葉の否定的な部分のみの捉えにならないように、誰にでもある「受容されたい」という気持ちに共感させる。
展開	40分	<p>* 資料のあらすじを確認し、感想を求める。</p> <p>1 祖母が亡くなったとき、家族一同がホッとした気持ちになったのはなぜだろうか。</p> <p>2 「年をとっても頭をなでて欲しい」という祖母の言葉を思いだし、主人公はどんなことを考えたのだろうか。</p> <p>3 「生きているうちは精一杯慈しみ合おう」とはどういうことなのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・祖母が死んだことにホッとしたのは、ちょっとひどいと思う。 ・祖母の死から家族のことについて考え、芝居を作ったのはすごいと思う。 ・寝たきりの祖母の介護は大変だった。 ・食事の世話、下の世話、何から何まで離れられない。 ・農業、家事、祖母の世話と休む暇がなかった。 ・周囲からの噂話、世間の目など、気が休まらなかった。 ・祖母の介護をめぐって、家族がもめて、気まずいときもあっただろう。 ・家族だからこそ言えない悩みや、苦しみをじっとこらえてきたのだろう。 ・老いるということ、死を迎えるということなど祖母は考えて、心細く、さびしかったのだろう。 ・世話をするのは当然なのだが、もっと祖母に寄り添ってあげればよかった。 ・介護をされる祖母も、家族に迷惑をかけると思って辛かったのかもしれない。 ・役割を果たす以上に、優しい言葉や、一緒にいてあげることの方が大事だ。 ・家族の喜び悲しみを一緒に分かち合って、生きていこう。 ・お互いに愛し合い、大切に合って、心の通う家族として生きていこう。 ・家族の思いやりや愛情を素直に受け入れ、自分からもそういう気持ちで接していこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の行動や考え方についての感想とする。 ・家庭での介護経験のない生徒が多いであろう。もし、誰かが病気やけがで寝たきりの状態になってしまったら、どのような世話が必要になるか、具体的に考えさせる。また、教師の側で、必要に応じて補足や補助発問をする。 ・主人公の家族は、大変な介護をそれぞれに懸命に果たしたうえでホッとしていることを、はずさないようにする。 ・一度はホッとした主人公が、「何か間違っている」と感じた、その心の有り様を生徒にじっくりと考えさせ、「家族の絆」という主人公の原点につなげる。 ・家族に守られて今ある状況は、やがて、自分が守る立場に変わっていくこと、また、誰も老いていくことにも触れる。
終末	7分	<p>4 家族からのメッセージを各自読ませ、感想を発表させる。</p> <p>5 家族へのメッセージを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が家族から大切に思われていることを、改めて実感した。 ・いつかは自分も家族を支え、家族の一員としてしっかり頑張っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によっては、発表しにくいケースがあることも考えられるので、1時間を通しての感想でもよいこととする。 ・「心のノート」P104、105を紹介する。